

音楽科（人権）学習指導案

日時：令和〇年〇月〇日（水） 校時
 対象：中学部〇年 A グループ 名
 場所：プレイルーム

1 単元名「U S J」の音楽をみんなで表現しよう」

2 生徒の実態

本グループは、〇年生男子 名、女子 名の計 名で構成されている。それぞれの生徒の本単元に関わる実態については、以下のとおりである。

A	・男子 S－M社会能力検査 ・周りの反応を気にしながら行動することがあるが、物事を明確に伝えようと懸命に行うことができる。 ・器楽演奏は意欲的に行い、教員の合図や友達にタイミングを合わせて演奏することができる。
B	・男子 S－M社会能力検査 ・言葉かけを否定的に捉えてしまうところがあるが、論理的に物事を伝えようと積極的に行動することができる。 ・器楽演奏は、友達と一緒に行動すると意欲的に行うことができる。
C	・男子 S－M社会能力検査 ・周りの反応はあまりに気せず、自分のペースで行動する。 ・器楽演奏や発表は気負わず行うことができるが、伴奏や友達を意識して演奏することができる。
D	・男子 S－M社会能力検査 ・演奏に対して苦手意識があるが、音楽の拍を感じて演奏することができる。 ・興味関心のある音楽を取り入れると、授業に前向きに取り組むことができる。
E	・女子 S－M社会能力検査 ・場面緘黙があり、ジェスチャーや筆談でコミュニケーションをとっている。 ・ピアノを習っており、器楽演奏を意欲的に行うことができる。
F	・女子 S－M社会能力検査 ・音楽の拍を感じて演奏する事は難しいが、伴奏や友達を意識して演奏することができる。 ・器楽演奏は、友達と一緒に行動すると意欲的に行うことができる。
	・女子 S－M社会能力検査 ・何事にも前向きで、音楽の技術の向上に対する意識が高い。

G	・器楽演奏や発表は意欲的に行い、教員の合図や友達にタイミングを合わせて演奏することができる。
H	・女子 S－M社会能力検査 ・はじめての活動や人前で表現することに対して、苦手意識や不安感が強い。 ・興味関心のある音楽を取り入れると、授業に前向きに取り組むことができる。
I	・男子 S－M社会能力検査 ・何事にも前向きで、音楽の技術の向上に対する意識が高い。 ・器楽演奏や発表は意欲的に行い、グループのリーダーとして友達の活動を意識して行うことができる。
J	・男子 S－M社会能力検査 ・周囲にとらわれることはなく、何事にも堅実に取り組むことができる。 ・器楽演奏や発表は楽譜通り行い、教員の合図や友達にタイミングを合わせて演奏することができる。
K	・男子 S－M社会能力検査 ・何事も自分のペースで行うところがあるが、何事にも積極的に取り組むことができる。 ・器楽演奏や発表は意欲的に行い、教員の合図や友達にタイミングを合わせて演奏することができる。
L	・女子 S－M社会能力検査 ・何事も自分のペースで行うが、教員や友達の動きを模倣することはできる。 ・器楽演奏は意欲的に行い、集中すると教員の合図に合わせて演奏することができる。
M	・男子 S－M社会能力検査 ・何事も自分のペースで行うが、教員や友達の動きを模倣することはできる。 ・興味関心に左右されることが多く、部分的に器楽演奏を行うことができる。
N	・男子 S－M社会能力検査 ・失敗を恐れて消極的になってしまうことがあるが、真面目で堅実な性格である。 ・器楽演奏や発表は意欲的に行い、教員の合図や友達にタイミングを合わせて演奏することができる。
O	・男子 S－M社会能力検査 ・学年のリーダー的な存在である。感受性が高く、アクティブである。 ・興味関心のある音楽を取り入れると音楽活動を意欲的に行い、楽譜通りに演奏することができる。
P	・女子 S－M社会能力検査 ・友達と一緒にいると、前向きに発表することができる。 ・器楽演奏や発表は意欲的に行い、教員の合図や友達にタイミングを合わせて演奏することができる。
Q	・男子 S－M社会能力検査 ・消極的で受け身の性格であるが、決められたことに関しては真面目に取り組むことができる。

	・器楽演奏や発表は意欲的に行い、教員の合図や友達にタイミングを合わせて演奏することができる。
R	・女子 S-M社会能力検査 ・消極的ではあるが、気の知れた教員や特定の友達には饒舌になる。 ・発表は恥ずかしがる時もあるが、教員の合図や友達にタイミングを合わせて演奏することができる。

3 単元設定の理由

(1) 生徒観

中学部〇年 A グループ〇名の生徒は、温厚な生徒が多い。意見が対立することは少なく、どの生徒も穏やかに学校生活を送っている。一方で、自己表現をするのが苦手な生徒が多く見られる。その理由に、新型コロナウイルスの影響が考えられる。他者と一緒に行う活動に制限がある中で学校生活を送ってきたため、協働や友達同士のやり取りの経験が極めて少ないことから、自己を表現する機会も少なかったのではないかと考える。また、学校行事である運動会や文化祭などが中止となり、人前で表現する経験が少ないだけでなく、何かを成し遂げる体験ができていないことも、自己表現が苦手な原因であると考え。音楽の授業においては、息の強さで表現を変えることができる歌唱や鍵盤ハーモニカ、リコーダーの演奏などを感染拡大防止の観点からあまり実施できなかったことも、表現の乏しさの理由としてあげられる。これらのことから、表現の活動が中心となる音楽活動に取り組みたいと思い、本単元を設定した。

(2) 単元観

特別支援学校学習指導要領において、中学部音楽科の目標 [A 表現イ器楽] 第一段階の内容では「(ア) 器楽表現についての知識や技能を得たり、生かしたりしながら、曲の雰囲気合いに合うような表現を工夫し、器楽表現に対する思いや意図を持つこと。」と示されていることから、生徒 A、B、C、E、G、I、J、K、N、O、P、Q においては、曲の雰囲気を捉え強弱やクレッシェンドの技法を取り入れて音楽表現を行う学習を設定した。また生徒 D、F、H、L、M においては、中学部音楽科の目標 [A 表現イ器楽] 第一段階の内容の「(ウ) 思いや意図にふさわしい表現をするために必要な次の〈ア〉から〈ウ〉までの技能を身につけること。〈ア〉簡単な楽譜を見てリズムや速度を意識して演奏する技能〈イ〉音色や響きに気をつけて、打楽器や旋律楽器を使って演奏する技能〈ウ〉友達の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能」と示されていることから、楽譜を見て友達や伴奏に合わせて演奏する学習を設定した。強弱などの曲にふさわしい表現を身に付けるには、曲の雰囲気や思いを捉え、自分で表現したいイメージをもつことが大切である。表現したいイメージをもつことは音楽表現をする楽しさにつながる。そして音楽表現の楽しさを感じることは、自己を表現する楽しさにつながるのではないかと考えた。

また本校の人権教育目標(3)においては、「自尊感情を高める教育活動を推進することにより、自分の大切さとともに他者の大切さを認めることができる児童生徒の育成を目指す。」と示されていることから、自尊感情を高めるためには音楽表現を通して称賛され、成功体験を積み重ねていきたい。そして自尊感情が高まることで、自分の発言や行動に自信をもって生活することができ、自己を表現する能力が高まることにつながると考えた。

（３）指導観

これまでの器楽の活動は、タンブリンやカスタネットなどの打楽器の指導を中心に行ってきた。本単元では、旋律楽器のトーンチャイムを使用する。トーンチャイムは手の動かし方や力加減で音の響きが変わる楽器であることから、曲の雰囲気によって音の響きを工夫することをねらいとすることにした。

修学旅行でユニバーサルスタジオジャパン（以下ＵＳＪと記す）を訪れることから、ＵＳＪに関する曲を取り扱うことにし、生徒が「演奏したい」という意欲を引き出すために世界中の人に愛されている日本生まれのマリオの映画「ザ・スーパーマリオブラザーズ」の曲「Peaches」を選曲した。この曲は、クッパがピーチの思いを綴ったバラード曲でトーンチャイムの美しい音色に相応しく、クッパの思いが強くなるフレーズで響きを工夫して演奏することがねらいである。曲の雰囲気を感じることができるよう、クッパが歌っている動画を見たり歌詞の意味を考えたりする時間を設け、クッパのピーチへの思いを考えるようにする。

曲の雰囲気や音の響きに気を付けて演奏する技能を身に付けるためには、友達同士で互いに聴き合う場面を取り入れることが効果的である。そのために少人数による活動を取り入れることとし、生徒○名を４つのグループに分けて○名程度で演奏を行う。○名がミ、ファ、ソ、ラ（ベース音）の音を分担して演奏する。グループで楽譜通りに演奏できるようになってきたところで、グループごとに演奏を聴き合う場面を取り入れる。互いの演奏を客観的に聴き合い、称賛し合うことを通して、自分の演奏に自信をもち、音楽表現する楽しさを感じることができるようになる。また自分の演奏を客観的に見ることができるよう、動画撮影を行い視聴する時間を設け、技術の向上をめざすこととする。生徒が友達を称賛する方法に当たっては、個人の実態に合わせて、拍手又は言葉での称賛とする。言葉で称賛する際には、必要に応じてどの部分を聴いてほしいかを明確に伝えるように助言する。曲全体をなんとなく聴き合うだけでは、生徒は「良かったと思います」などと漠然と感想を言うため、焦点を絞って聴き合うこととし、「アクセントができていた」「強弱がよくできていた」などの良いところを認めるような発言が生まれるようにする。称賛されると、演奏技術が高まるだけでなく自分に自信をもって演奏できるようになり、演奏を発表する楽しさや面白さを味わうことができる。それらの経験の積み重ねが、自己表現力の向上につながると考えた。

４ 単元の目標

（①「知識及び技能」②「思考力、判断力、表現力等」③「学びに向かう力、人間性等」）

- ・器楽演奏において、強弱の技法を身に付けることができる。（①）
- ・友達と一緒に、音楽表現を発表することができる。（②）
- ・友達の演奏を聴いて、良かったところや感じ取ったところを拍手したり発言したりして称賛することができる。（②）
- ・曲の雰囲気を感じて、それに合いそうな演奏の仕方を考えることができる（③）

5 単元評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・強弱の技法を身に付けている。 ・伴奏に合わせて、友達と一緒に演奏している。	・音楽表現を発表している。 ・友達の演奏を聴いて、良かったところや感じ取ったところを拍手したり発言したりして称賛している。	・「Peaches」の音楽の雰囲気を感じ取り、音楽表現を工夫しようとしている。

6 指導計画（全9時間）

曲の雰囲気を感じ取って演奏しよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・3時間
 グループに分かれて演奏しよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・3時間
 自分の演奏動画を見て、工夫しよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・3時間（本時 3／3）

7 本時の学習

（1）本時の目標（全員）

（①「知識及び技能」②「思考力、判断力、表現力等」③「学びに向かう力、人間性等」）

- ・トーンチャイムによる音楽表現を発表することができる。（②）
- ・トーンチャイムでの器楽演奏において、強弱を付けて演奏することができる。（①）

- ・友達の演奏を聴いて、良かったところや感じ取ったところを拍手したり発言したりして称賛することができる。（②）
- ・曲の雰囲気を感じ取り、音楽表現を工夫することができる。（③）

（2）個人の目標

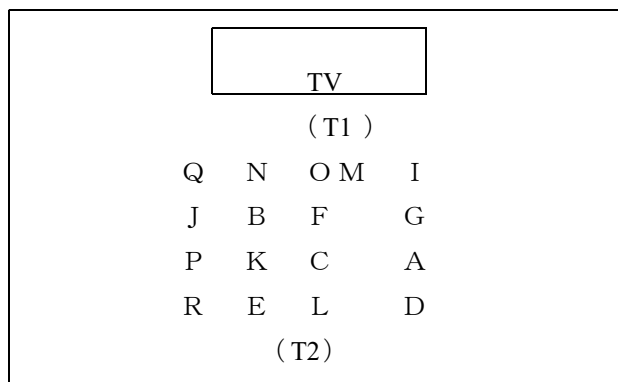
A、B、C、E J、P、R、L	・強弱を付けて、楽器を鳴らすことができる。 ・グループの友達と一緒に、音楽表現の発表をすることができる。 ・演奏している友達の方に体を向けて発表を聴き、拍手をして称賛することができる。
D、F、H	・友達と一緒に、楽譜通りに楽器を鳴らすことができる。 ・グループの友達と一緒に、音楽表現の発表をすることができる。 ・演奏している友達の方に体を向けて演奏を聴き、拍手をして称賛することができる。

G、I、K、N、 O、Q	・曲の雰囲気合うように、強弱を付けて楽器を鳴らすことができる。 ・グループの友達と一緒に、音楽表現の発表をすることができる。 ・友達の音楽表現を聴いて、良かったところや感じ取ったところを発表することができる。
M	・友達と一緒に楽器を鳴らすことができる。 ・音楽発表している友達の方に体を向けて、聴くことができる。

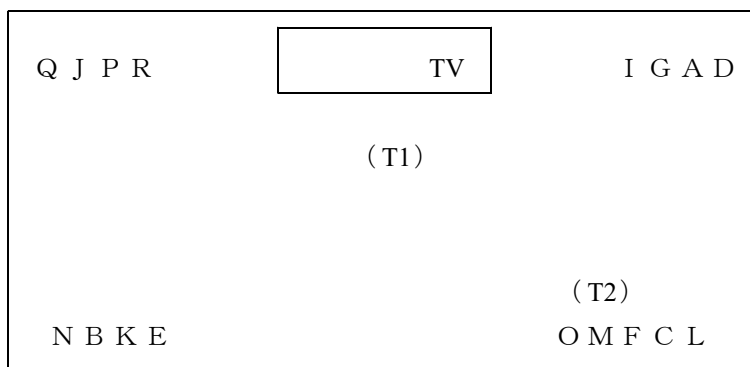
(3) 人権の普遍的な学習のテーマ・・・自己表現・仲間意識

8 配置図

○はじめの体系、演奏



○グループでの練習



9 本 時 の 展 開

	学 習 活 動	指 導 の 手 立 て		学 習 活 動 に お け る 評 価 規 準	評 価
		T 1	T 2		
3分	①はじめのあいさつを行い、本時の流れを知る。	・当番の生徒にあいさつを促す。テレビ画面に、本時の活動を提示し説明する。 ・本時は前回と同様、友達の前で発表することを伝える。上手に演奏できるようになってきたので、本時はこれまでの仕上げと伝える。	・姿勢やテレビ画面に注目できているか見守り、できていない場合は正すように促す。 ・テレビ画面やT1に注目できていない場合は、言葉かけをする。	・本時の流れを知ることができる。(全員)	観察
8分	②歌詞の読みや歌詞に出てくる登場人物について知る。	・歌詞を順番に一人ずつ読んでいき、歌詞の意味や想いを文字やイラストで伝える。本時の演奏に生かせるようポイントを絞り本時の目標を伝える。	・姿勢やテレビ画面に注目できているか見守り、できていない場合は正すように促す。 ・テレビ画面やT1に注目できていない場合は、言葉かけをする。	・本時の目標を知ることができる。(全員)	観察
3分	③楽器の準備を行う	・担当する音を確認し、楽器を準備するように伝える。 (QONOMI：ソ、JBFG：ファ、PKCA：ラ、RELD：シ)	・EFMの担当する音の楽器の準備ができているか見守る。	・楽器の準備ができる。 (全員)	観察
7分	④強弱の奏法の確認を行う。	・強弱記号の読み方や意味を確認する。 ・リズムパターンや強弱の奏法の範奏を行い、奏法の表現に関する効果を伝える。 ・前時の演奏で上手にできているところの動画を見ながら、良い点の確認を行う。	・テレビ画面に注目できているか見守り、できていない場合は正すように促す。 ・範奏通りに鳴らすことができるよう、必要に応じて身体的ガイダンスを行い、反復練習を促す。範奏通りに鳴らすことができる場合は、称賛する。	・強弱やアクセントを付けて演奏することができる。 (ABCEGHIJKLMNOPQ) ・楽譜通りに楽器を鳴らすことができる。(DFHM) ・曲の雰囲気を感じ取ることができる(全員)	観察 演奏
7分	⑤4つのグループに分かれて、演奏する。 グループ(QJPR)(IGAD)(NBKE)(OMFCL)	・各グループに分かれて、演奏するように伝える。 ・各グループでの練習中、曲の雰囲気に合うように強弱を付けて演奏することができていると、称賛する。	・Fが楽譜通りに鳴らすことができるよう、手拍子や階名唱を行い、反復練習を促す。鳴らすことができている場合は、称賛する。	・強弱やアクセントを付けて演奏することができる。 (ABCEGHIJKLMNOPQ) ・楽譜通りに楽器を鳴らすことができる(DFH)	観察 演奏
10分	⑥グループ毎に、発表する	・発表するグループには、発表しやすい雰囲気になるように肯定的な言葉かけを行う。(例「いつもどおり演奏しよう」「友達と一緒に大丈夫」など) ・発表後、教員はそのグループに対して拍手をし、良かった点を具体的に挙げて称賛するようにする。 ・発表を聴くグループには、注目して聴いてほしい部分(例：強弱、グループでの音のバランス、楽器の動かし方等)を予め伝える。演奏後、聴いていたグループの代表者(G,K,I,N,O)に、その点についての感想を聞く。	・必要に応じてMに演奏の目標(例：Oを見ながら演奏する)を伝え、近くで見守る。できたら称賛し、難しければ次回するように励ます。 ・各パートの発表が終わる毎に拍手をして称賛する。 ・発表を聴くグループを見守り、必要に応じて体を発表者に向けるように促す。(M)	・音楽表現を発表することができる。(全員) ・曲の雰囲気を感じ取って演奏することができる。 (ABCEFGHIJKLMNOPQ) ・友達の演奏を聴き、拍手又は言葉で称賛することができる。(全員)	観察 演奏 発言
2分	⑦本時を振り返り、終わりのあいさつを行う	・本時の目標の振り返りを行い、目標が達成できたか挙手を促す。挙手ができた生徒には称賛し、できなかった生徒に対しても良かったところを伝える。 ・当番の生徒に挨拶を促す。	・T1に注目できていない場合は、言葉かけをする。 ・挙手ができた生徒には拍手をして称賛する。	・目標が達成し、挙手することができる。(全員)	観察